

平成30年12月13日

三浦市議会議長 岩野 匡史 様

総務経済常任委員会

委員長 草間 道治

平成30年度 総務経済常任委員会行政視察報告書

1. 視察日程

平成30年11月6日（火）・7日（水）

2. 視察地

山口県長門市 11月6日

山口県長門市 11月7日

3. 視察参加者

総務経済常任委員会

委員長 草間 道治

副委員長 小林 直樹

委員 藤田 昇

委員 出口 正雄

委員 長島満理子

欠席 木村 謙蔵

随 行 長島ひろみ

長嶋 尚美

4. 視察事項

山口県長門市

一市一農場構想の推進について

山口県長門市仙崎

センザキッチン

施設の概要について

【11月6日(火)】

(長門市HPより)

山口県長門市の概要

- ・面積 357.31 平方キロメートル
- ・人口 34,402人 (平成30年10月)
- ・世帯数 16,057世帯 (〃)
- ・産業別 第1次産業 (13.6%) 第2次産業 (22.9%)
第3次産業 (63.5%)
- ・市制施行 平成17年3月22日 (旧長門市、大津郡三隅町、日置町、油谷町が合併)

■ 位置・地勢

本州の最西北端、山口県の西北部に位置する長門市。東は萩市、南は下関市、美祢市に接し、北側には北長門海岸国定公園に指定される美しい日本海の風景が広がっています。

日本海沿岸一帯の豊かな漁場では、古くから捕鯨や漁業が盛んに行われ、多くの漁港が点在しています。

北長門海岸国定公園に指定される海岸線では、日本海の荒波に浸食された岩と白い砂浜が出入りし、変化に富んだ雄大な自然景観を生み出しています。中でも紺碧の海上に奇岩怪石が連なる海上アルプス「青海島」、遥か日本海を展望できる「千畳敷」、海に浮かぶ「棚田」のシルエット、本州最西北端に突き出した「川尻岬」の緑青色の海などは、訪れる人々を魅了します。

長門市は温泉に恵まれ、風情も効能も異なる5つの温泉郷があります。清流にホタルが舞いカジカの声が響く「湯本温泉」、山間の湯治場「俵山温泉」、長閑に効能を楽しむ「湯免温泉」、美しい海を臨む「黄波戸温泉」や「油谷湾温泉」があり、多くの人々が訪れています。

一方、いのちと心を大切にした童謡詩人「金子みすゞ」、シベリヤ・シリーズ



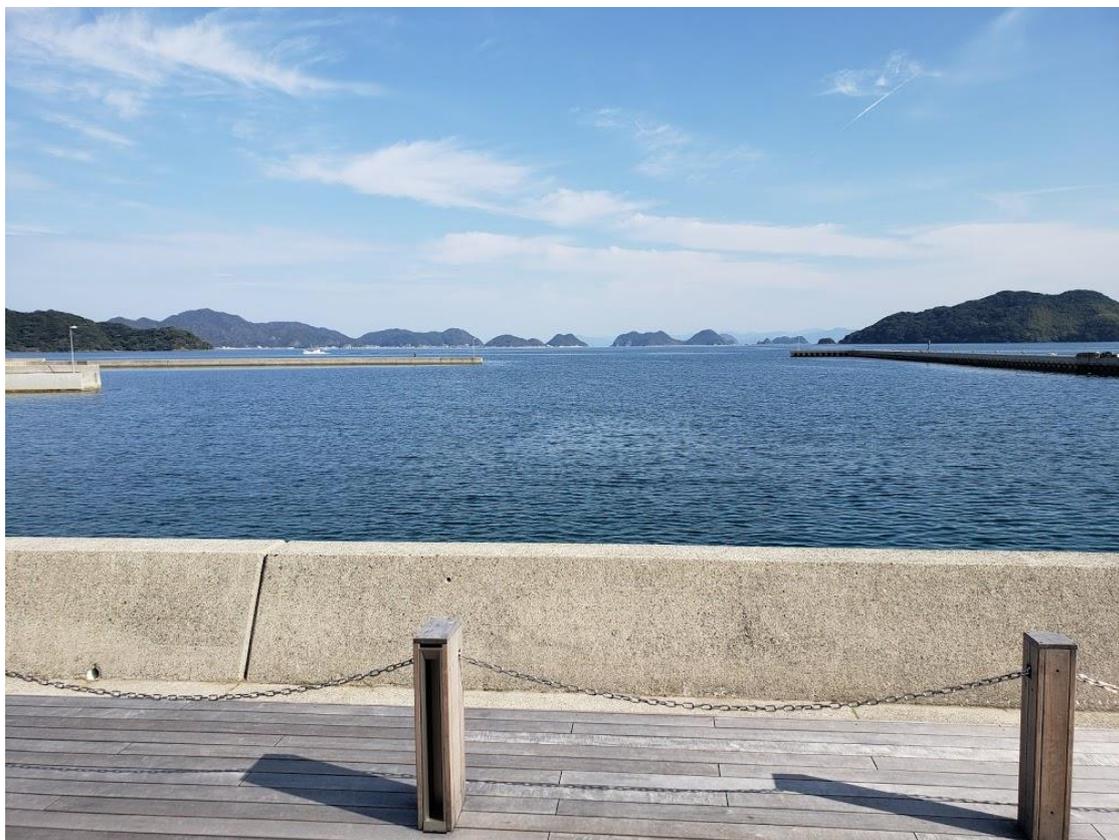
で知られる画家「香月泰男」、長門出生伝承の残る劇作家「近松門左衛門」といった人たちの存在は、長門の文化を深く魅力あるものにしてしてくれます。歴史の舞台では大内氏終焉の地として語り継がれ、楊貴妃伝説など浪漫溢れる物語も数多くあります。

長門市ではこうした豊かな大自然とこれまで築かれてきた歴史や文化を融合したまちづくりを進めています。その力は『風』となり、市民活動の原動力として

流れています。

金子みすゞを生んだ仙崎ではみすゞ通りができ、詩のイメージを思い抱いて散策することができます。学校ではみすゞ教育が行われ、豊かな感性が育まれています。『長門の新しい風』は、いつの日か第二のみすゞを誕生させるかもしれません。

元乃隅稻荷神社



一市一農場構想の推進について

(長門市農林課一市一農場推進室の取組について)

● 視察目的

近年、全国的に少子高齢化による人口減少が進んでおります。本市においても毎年人口が減少し、高齢化が進んでいる状況であります。このような状況のなか、本市の基幹産業である農業においても、今後、生産者の高齢化や後継者・担い手不足等の問題が懸念されていることから、担い手の確保・育成、担い手への農地の集積・集約を進めている先進地における、これまでの取組の経緯や実施状況・成果を調査し、本市の農業振興に生かすことを目的とした行政視察とすること。

● 視察先対応者

進行：長門市議会事務局 主査 山下賢三

説明員：一市一農場推進室 室長補佐 梶川節雄
主査 栗畑卓宣

● 視察訪問先 長門市役所

● 事業概要

■ 一市一農場の推進について

◇ 経緯

長門市では、平成25年5月に、農業、水産及び観光産業を中心に統一的な成長の方向性を示す「ながと成長戦略指針」、同年9月に、今後5年間の具体的な施策展開等を示す「行動計画」を策定しました。

農業については、農業者の減少や高齢化が進行する中で、長門市全体を“一つの農場”として捉え、担い手の農地を集積・集約するとともに、和牛飼育や野菜づくりなどの経営の多角化を進め、雇用創出や所得向上、安心・安全な農産物の供給拡大などにより、地域農業の持続的発展を目指す「一市一農場構想」を推進することとしました。

特に、農地集積については、平成35年度の担い手への農地集積率を国や県の目標である70%を上回る80%とする高い目標を設定し、平成26年4月に「一市一農場推進室」を設置、「長門市農地集積バンク」を設置しました。

〈一市一農場推進室の概要〉

- 位置付け 長門市 — 経済観光部 — 「一市一農場推進室」
- 職員 H26:市職員3名、コーディネーター2名(市嘱託職員)、臨時職員1名
H27:市職員2名、コーディネーター3名(県農林振興公社から広域推進員(公社嘱託職員)を長門市に派遣)、臨時職員1名
H28~:H27と同じ
- 推進員 農地集積バンク推進員32名(市から委嘱)・・・H26のみ

■ 主な質疑応答

Q：平成25年に「ながと成長戦略指針」を策定した中で、農地の集積・集約の方法については、主に農地中間管理機構の手法で行っているのか。

A：農地中間管理機構を利用すると集積に対する協力金がいただける。譲受人は地域集積協力金が、譲渡人はすべての農地を出す場合は、経営転換協力金がある。5反未満が30万円、5反以上2haまでが50万円、2ha以上が70万円の協力金がいただける。

また、一部の農地を出す場合は耕作者集積協力金を活用している。

Q：法人について、集落営農法人と農業法人があるが、農業者が集まって法人を作る方が多いのか。

A：集落営農法人については、集落で営農に意欲のある方が集まって作っている。山口県では現在、集落営農法人を推進している。

農業法人については、いくつかの法人が集まって、その集落から出た農地についてはすべて請負う契約で行っている、又は有限・株式会社法人で経営している。

Q：民間企業の参入は、ないのか。

A：残念ながら、現在は民間企業の参入がない状況である。

Q：農地中間管理機構の農地の借受け料は。

A：10アール当たり、5,000円である。

Q：新規就農者の施設園芸等での収益状況はどうか。

A：まだまだ、順調には収益が上がらない状況である。

Q：新規就農支援策について、農業機械等の整備には支援が受けられるのか。

A：50万円の農機具に対しては半分の25万円の補助が受けられる制度がある。

Q：長門市の気候はどうか。

A：温暖で穏やかである。台風等の被害も少ない。

Q：今後の重点施策について、長門プランの構築や6次産業の取組状況を伺いたい。

A：6次産業の支援を目的とした「長門ラボ」という調理場で6次の取組を行っている。



Q：一市一農場推進室は、市長の政策として設置したのか。

A：その通りである。

Q：農地集積バンク推進員32名については、農家の方に対し市から委嘱しているのか。

A：市内全体で32名、任期は1年間で、一人当たり100戸の農家を担当している。今後の経営についてのアンケート調査を行った。

Q：農地の集積・集約についての問題点は。

A：農家からは、農地の評価額に対する意見等の問題がある。飼料用の米を自分の田んぼで作ってほしくない等の問題が26年当時はあった。

Q：農業法人の田んぼについて、耕作面積はどの位か。

A：平均15haから20ha、多い法人では40haの面積を耕作している。

Q：担い手不足の状況で、集積率を上げるには担い手を増やす必要があると思うが、現在の状況は。

A：現状では、なかなか厳しい状況である。



山口県長門市庁舎前

山口県長門市仙崎 センザキッチン

(施設の概要について)

多彩な名産品や風光明媚な観光地に恵まれ、豊かな地域文化をはぐくんでき山口県長門市仙崎の海辺に交流拠点施設「センザキッチン」がありました。この施設には、長門の豊かな食材と楽しい情報や充実した遊びがあり、家族や仲間



間が集い、食を楽しみ、語らうLDK（リビング・ダイニング・キッチン）のように、観光客や地域住民の方など誰でも安心して利用でき、ゆっくりと休憩しながら楽しめる“食べて遊んでくつろげる家”を目指した施設が誕生していました。



施設内には、産直市場があり、新鮮な魚介類や地元の畑からのとれたて野菜、加工品・土産もの売り場など、充実した内容の商品が販売されていました。





長門おもちゃ美術館



施設内にある長門市観光案内所

ひものや食堂「ひだまり」
のどぐろとアジフライの定食



行政視察の成果について

総務経済常任委員長 草間 道治

山口県長門市の行政視察を終えて

深まる秋11月に訪れた山口県長門市では、綺麗に黄葉した街路樹のイチョウの木が私たちを出迎えてくれました。穏やかな天候に恵まれ視察を終えることが出来ました。視察を担当していただいた、長門市職員のあたたかい歓迎と丁寧な視察対応に感謝いたします。



今回、初日に訪れた山口県長門市の「一市一農場構想の推進について」の視察で感じたことは、長門市役所農林課に「一市一農場推進室」を設置して、効率化と迅速な対応により事業を推進していること、平成26年に推進員として、農地集積バンク推進員32名を市から委嘱して農地の集積事業推進を図っていることや、「日置モデル地区」を設定して集落営農法人の設立、新規就農者の確保・育成、圃場の大区画化等の支援を行い、農業生産体制のモデルを構築するなどについては成果が出ておりました。

「一市一農場構想」では、農地集積については、平成35年度の担い手への農地集積率を国や県の目標である70%を上回る89%とする高い目標を設定して取り組んでいますが、平成29年度で、農地集積率は40%と厳しい状況でありました。その背景には、担い手不足により農地集積が進まないという新たな問題があるとのことであります。

今後の取組みとして、農地の集積・集約の加速化や新たに「長門市農業振興公社（仮称）」の設立、そして、担い手不足を解消し、優良農地を守るとともに、新たな農産物の産地を目指すことを目的としていました。

長門市の「一市一農場構想の推進について」は、担い手の確保・育成の難しさや、これまでの稲作栽培から新たな農産物の産地を目指すことなど厳しい課題が山積していると感じました。

今後の、「一市一農場構想推進」事業成功と担い手に農地を集積・集約することによる地域農業の発展に期待するところであります。

また、2日目に視察した長門市仙崎地区の交流拠点施設「センザキッチン」については、仙崎の海辺にあり、長門の豊かな食材と、長門の楽しい情報と、長門の充実した遊び、食を楽しめるなど“食べて遊んでくつろげる家”を目指した施設であり、施設内には観光案内所もあり、当日は平日にも関わらず、県外から大勢の観光客が訪れていました。食事をする施設では、行列ができていました。

施設から見た仙崎湾は素晴らしい景色でありました。

長門市への行政視察 報告

副委員長 小林 直樹

1. 「一市一農場構想」について

(1) 一市一農場構想

農業、水産業及び観光業を中心に「ながと成長戦略指針」が2013年に策定されました。その行動計画で、農業者の減少や高齢化が進む長門市全体を「一つの農場」として捉え、農地の集積・集約などをめざす「一市一農場構想」を推進することになりました。



(2) 農地の集積

2014年4月には、「一市一農場推進室」を設置し「長門市農地集積バンク」を設立しました。また、山口県農地中間管理機構を活用し、農地の集積を図っています。

(3) 担い手マッチング

担い手不足を解消し、優良農地を守るとともに新たな農産物の産地化を目指すことを目的とし、「長門市農業振興公社」の設立を目指しています。

(4) 今後、参考にすべき事項

地域経済を活性化させるためには、総合的に戦略を練り、計画を立てることが必要です。長門市は、「ながと成長戦略指針」を策定し、行動計画を作り、取り組んでいます。このように、計画的に施策を展開しているところが参考になりました。

長門市は、農業従事者の高齢化と後継者問題がかなり深刻な状態でした。三浦市は、営農意欲が高く、耕作放棄地も少ない状態です。今のうちに、基幹産業である農業の将来に向けたビジョンを描くことが必要だと感じました。

2. 「センザキッチン」について

(1) ながと物産合同会社の設立

2014年5月に、長門市が掲げる「ながと成長戦略指針」の重点目標の一つである「ながとブランドの大都市圏展開」を担うために「ながと物産合同会社」が設立されました。ながと物産合同会社は、長門大津農業協同組合、深川養鶏農業協同組合、山口県漁業協同組合及び長門市の4者が出資しています。

(2) 交流拠点施設「センザキッチン」

2017年10月に、ながと物産合同会社が指定管理者となりセンザキッチンがオープンしました。また、2018年4月にはセンザキッチンが「道の駅」になり、市内商材の販売と魅力ある運営により交流人口の拡大を図り、地域経済の発展を目指しています。

(3) 今後、参考にすべき事項

センザキッチンには、直売所や飲食店、おもちゃ美術館、観光総合窓口など

があります。三浦市の「うらり」は、「海の駅」になっており、観光総合窓口があれば三崎下町への回遊性が高まると考えます。

総務経済常任委員会行政視察 報告

長島 満理子

山口県長門市の一市一農場の推進について視察をしてきました。

三浦市同様、長門市も第一次産業が中心の市です。平成25年に農業、水産業、観光業を中心に統一的な成長の方向性を示す「ながと成長戦略指針」、施策展開等を示す「行動計画」を策定しました。

また、農業については、農業者の減少・高齢化が進行する中で、長門市全体を「一つの農場」と捉え、経営の多角化を進め、所得の向上、雇用の創出、安心安全な農産物の生産、地域農業の持続的発展を目指す「一市一農場」を推進しています。

内容は、農地の出し手と受け手である担い手をマッチングすることで、担い手の確保・育成、担い手への農地の集積・集約を進めています。関係機関・団体が一体となって、担い手不足の解消を図り、優良農地の荒廃を防ぐための体制整備を行っています。

また、重点的に進めるモデル地区を設定し、集落営農法人を設立し、新規就農者の確保、育成、ほ場の大区画化の支援を行い、長門市の農業生産体制のモデルを構築しています。

様々な取り組みを行政と市民との話し合いによって生産向上を目指し、長門ブランドの振興につなげています。

山口県内最大級の広大な敷地の交流拠点施設「センザキッチン」を視察しました。食べて遊んで、情報交換できる、安心して集う場所というコンセプト通り、長門の豊かな食材・楽しい情報がここに来ればなんでも分かる施設となっています。平日でも多くの方が来場していました。

観光案内所は、明るく利用しやすい雰囲気で作られ、多くの方が利用していました。直売所では、鮮魚、地元農家の新鮮野菜、地元の生産物を使った総菜などが売られ、ここで買った鮮魚などでバーベキューができる施設もあります。新鮮なものをその場で食べることが出来ます。

また、お土産品などを見ても、農産加工品も多くありました。カボスやスタチの仲間である「ゆずきち」を使ったドレッシングやケーキなどもありました。長門市には六次産業化支援施設「ながとラボ」があり、一次産業事業者の所得向上や観光事業活性化を目的に商品開発が出来る施設です。



なかなかヒット商品はできないようですが、特産品を使った商品は「まちな顔」になります。三浦市でも商品開発は多くの人達が行っています。今後も地元の資源を使った六次産業化ももっと取り組んでいけたらと思いました。

総務経済常任委員会 行政視察報告

出口 正雄

山口県長門市への視察

(1)一市一農場構想の推進について

・一市一農場の経緯

平成25年5月「ながと成長戦略指針」。同年9月には、5年間の具体的な施策展開を示す行動計画を策定しました。

本市でも同様に農業者の減少や高齢化が進行する中、長門市全体を一つの農場として、担い手に経営の多角化を進め、雇用創出や所得向上、安心安全な農産物の供給拡大により、一市一農場構想を推進しています。

本市の農地土地改良事業と類似している所が多にあると思います。

「一市一農場推進室」は、「農地土地改良事業」と構想は同じで、目的は、荒廃した農地を生きた農地にする事が一番の計画ではないだろうかと思います。

また、行動計画については、本市にも将来的に法人化する兆しがある傾向と考えます。なぜなら、農業者の減少と高齢化が原因で小農家が減少し、大農家が繁栄すると予想されるからです。

(2)センザキッチン、長門市の観光について

元乃隅稻成神社を筆頭に、千畳敷、青海島では今まで経験した事がない位のスケールと、大自然が削り上げた芸術作品に感動しました。

そして、センザキッチンは食のパラダイスです。ローカルフードが手軽に食べられ、美味しい、楽しい。ここは人が集まり、思い出を作る場所であります。

最後に、長門市は交通は不便ではあるが、興味深い所でもあります。今回も有意義な行政視察でありました。



平成30年度 総務経済常任委員会 行政視察報告書

藤田 昇

1、平成30年11月6日(火) 山口県長門市

- 〈視察内容〉 ① 一市一農場構想の推進について
② 実施計画の作成について



○長門市では、農業者の減少や高齢化の進む中で、長門市全体を一つの農場としてとらえて、担い手に農地を集積・集約するとともに、和牛の飼育や野菜づくりなどの経営の多角化を推進し、雇用の創出や所得の向上を図り、安心・安全な農産物の供給拡大などにより、地域農業の持続的発展を目指す「一市一農場構想」の推進が図られています。

特に、平成26年4月に「一市一農場推進室」を設置して、市の職員や元JA職員などによるコーディネーターを配置し、農地の出し手と受け手である担い手をマッチングすることで、担い手の確保・育成や担い手への農地の集積・集約を推進されています。市から委嘱された「農地集積バンク推進員」が対応して農地集積・集約及び担い手の確保などの推進されていました。

また、関係機関と団体が一体となって、担い手不足の解消を図り、優良農地の荒廃を防止するための体制整備を行っています。

また、就農支援についても、市内及び市外からの新規就農・就農者の確保・育成に向け、国や県の支援策はもとより、市独自の支援策により、募集、研修、就農・就業、地域への定着に至るまでの幅広い支援を行っており、具体的には、転入者に限り、①借家賃借料の補助：3年を限度に30,000円/月を補助、②農地借地料の補助50a/1人、3年を限度に5,000円/10a/年を補助、③新規就農奨励金1人（1家族）300,000円を支給するなど。

また、集落営農法人等を受け皿とした就業者の確保・定着のため、新規就業者を受け入れた法人に対し、5年間の定着支援給付金を支給するなど、幅広い支援策が図られていること等、基幹産業である農業振興を推進されていることに感心いたしました。

2、平成30年11月7日(水) 山口県長門市

- 〈視察内容〉 ① 道の駅「センザキッチン」及び市内観光地の視察

○平成29年10月に仙崎地区に交流拠点施設として「センザキッチン」がオープンし、施設の管理者として、「ながと物産合同会社」が市内商材の販売と、魅力ある運営による交流人口の拡大に力を注いでいます。

また、一次産業を中心に雇用の創出と所得の向上を図るため、首都圏への地

域産品の販路拡大や、地域の生産者や加工事業者と連携し、農林水産物を活用した商品開発も手掛けています。このように、地域商社による地域価値の創造を図るため、本年4月に道の駅としてグランドオープンした「センザキッチン」を拠点に、「食」や「観光」の魅力を発信し、地域の価値の創造が進むよう「ながと物産合同会社」や「長門市観光コンベンション協会」の活動基盤の確立を支援し、地域経済の発展につながる取り組みをされています。

また、周辺には、北長門国定公園に指定されている周囲40kmの島で、「青海島」別名「海上アルプス」と称されている大自然が削り上げた洞門や断崖絶壁など芸術作品が多く、船上より見学させて頂きましたが、自然の美術館といわれる観光地で、素晴らしい景色でした。

また、「食」も新鮮な海産物などを施設内のレストランで食事ができ、昼食に旬の魚を手作りで加工した「のどぐろの干物定食」を大変おいしくいただきました。

その他にも、「センザキッチン」の周辺には観光地が豊富で、千畳敷や龍宮の潮吹などを廻らせていただきました。



【千畳敷】



【青海島の洞門】